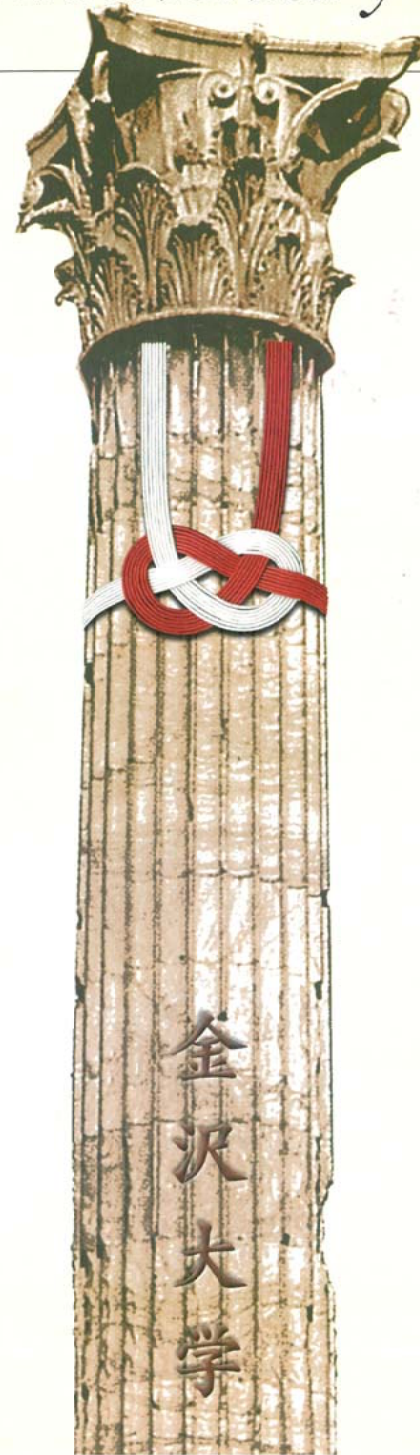
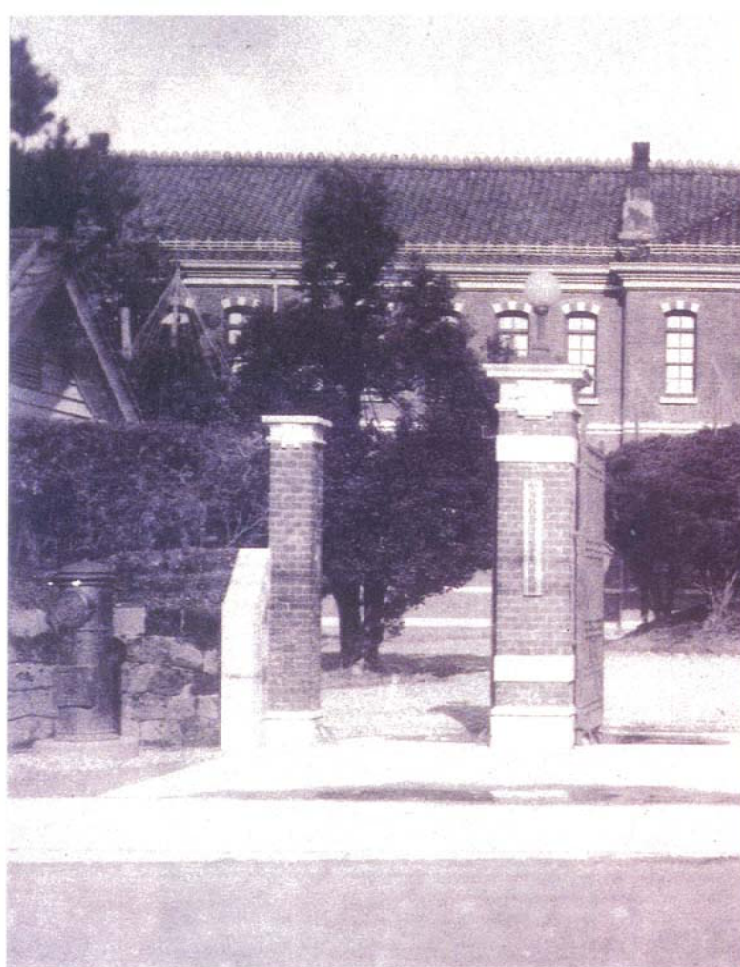




The 50th Anniversary of the Foundation  
of Kanazawa University

創立50周年記念展示





第四高等学校 大正14年(1925)

### 50周年記念展示

- 会期：平成11年5月29日(土)～6月11日(金)
- 会場：角間キャンパス特設会場及び附属図書館・資料館
- 内容：
  - ◆ 旧制第四高等学校・新制大学創設期
  - ◆ 金沢大学の現在
  - ◆ 50年後のキャンパス構想

金沢大学の歴史を語る資料展示  
 50周年記念のために収集された写真パネル展示  
 2050年にタイムスリップするアニメーション映像  
 卒業年度で検索できる「思い出アルバム」

- 問い合わせ：金沢大学附属図書館 ☎(076)264-5200
- 編集・発行：「キャンパス2050」検討グループ  
 金沢大学庶務部庶務課企画係 ☎(076)264-5014  
 〒920-1192 金沢市角間町  
 E-mail: jsyo5014@ad.kanazawa-u.ac.jp  
 http://www.kanazawa-u.ac.jp



#### 表紙のコリント式円柱

古代ギリシャ・ローマの建築を支えたコリント式円柱の柱頭飾りはアカンサスの葉をデザインしたもの。アカンサスは地中海沿岸原産の植物で、和名は「ハアザミ」。また、哲学者プラトン創設の学園「アカデメイア」の庭にも植えられていたと伝えられるアカンサスは、金沢大学の校章デザインのモチーフでもある。



金沢医科大学 大正14年(1925)



金沢医科大学附属病院 大正14年(1925)



石川師範学校女子部



創設期の金沢大学工学部 昭和42年(1967)



外科手術場 明治43年(1910)



教育学部新校舎 昭和27年(1952)



理論化学実験に取り組む1回生 昭和27年(1952)



事務風景(学生係) 昭和37年(1962)



食堂 昭和39年(1964)

金沢大学の創設は、終戦後まもなく発足した旧帝大型の総合大学をめざす「北陸総合大学設置期成同盟会」の運動に始まります。そして、金沢第四高等学校、石川師範学校、金沢医学校、金沢工業高等学校などを統合し、昭和24年5月31日に新制国立大学として「金沢大学」が発足しました。



開学記念塔 石川門にアーチ 昭和34年(1959)



開校式 校長式辞 大正12年(1923)



金沢大学総合移転整備事業建設工事竣工式 昭和59年(1984)



石川門に向かう受験生 昭和60年(1985)



角間北キャンパス



角間南キャンパス



宝町キャンパス(中央) 及び鶴間キャンパス(右)



小立野キャンパス  
(工学部)



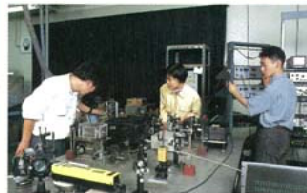
平和町キャンパス  
(教育学部附属学校)



附属図書館



看護実習



実験風景



金沢大学標石



国際交流を積極的に推進



外国人留学生を対象に講演する眞野響子さん

昭和62年度から始まった総合移転は、平成7年度に角間地区への総合移転第I期計画事業(旧・城内部局の移転)が完了し、現在は総合移転第II期計画事業(旧・城外部局の移転)が進行中です。



角 間 キ ャ ン パ ス の 四 季





人類の知が一室に結集した「アテネの学業」は、ルネッサンスの巨匠ラッファエッロが描いた夢の大学でもある。



2050年のキャンパスライフでも学生たちが主人公である。



金沢大学のシンボルタワー：学問の経緯感を有機的に連繋させながら、大学は飛躍のらせん運動のように調和と統一のとれた文化形成を描く。



緑なす自然と共生しながら発展する角間キャンパス。



南キャンパスに完成した角間スポーツドームが見える。

50年後の金沢大学キャンパス構想を検討するにあたっては、特に「金沢の歴史的都市形成」や「開かれた大学としてのあり方」を十分に考慮しました。さらに市民や有識者との懇談会・シンポジウムでの成果を踏まえ、金沢大学の将来像を描く方向としては、次のような《集中型プラン》と《分散型プラン》に集約されます。

《集中型プラン》

金沢には都市構造の上からみて、都市軸と歴史軸の二つの軸が存在します。さらに第三の金沢大学軸を交差させて、都市の文化的基盤としての構造性を明確にするとともに、新たな交通手段としてのユニヴァーシティ・モノレールを軸線上に想定します。そして、金沢大学軸線上には下記のような大学附属施設を配置し、大学機能と都市機能の連続性を図ります。

- 1) 角間キャンパス（総合教育研究の拠点）
- 2) 宝町メディカルセンター（医療・福祉の拠点）
- 3) 金沢城とその周辺（ユニヴァーシティ・ミュージアム/生涯学習の拠点）
- 4) 駅西地区（産官学の共同研究施設）
- 5) 金沢港（洋上大学＝海洋環境研究の拠点）

《分散型プラン》

角間キャンパス及び宝町キャンパス以外には大学機能が特定の場所に集中することを避け、金沢市街地で他の機関との施設共有や共同利用を図りながら、1/1のカルチャー・ラタン的な分散型発展を重視します。つまり、それは都市内分散型プランからなる有機的大学空間を想定する方向であり、「大学＝都市共同体」としての意識を高め、真に開かれた大学としての機能を促進するものです。

「キャンパス2050」検討グループは、上記の二方向における金沢大学の将来的発展を検討した結果、《集中型プラン》と《分散型プラン》を融合した未来の金沢大学像を提案してみました。



宝町メディカルセンターは北陸における医療と福祉の最大の施設。



大形マルチスクリーン、衛星通信システムを利用して、常に世界の最先端医療を学ぶことができる医学部のメディア・レクチャー・ルーム。



附属図書館の主流は電子ライブラリーで、各研究機関ともネットワークで結ばれている。

金沢市立現代美術館に金沢大学との共同開発で誕生したホログラム・スペース：ここでは世界の美術館との連携によって立体作品が再現され、美術鑑賞教育は新時代を迎えている。



附属施設として金沢港に浮かぶ洋上金沢大学。角間キャンパスからは大学軸線上にモノレールが走る。